

I 研究主題について

「自他を大切にし、共に生きる力を育む人権教育の創造」
～他との豊かなかかわりを通して学び合い、支え合う児童の育成～

本校児童の課題を解決し、自分も他人も大切にできる児童を育てていくために、

①自尊感情の育成

②主体的な行動力の育成

③コミュニケーション能力の育成

という3点の重点目標を設定し、人権教育に取り組むことにした。また、学年ごとに特に育成したい点を明確にし、すべての教育活動で意図的・計画的に取り組むこととした。

[本校で大事にする3つのかかわり]

1 教師や子ども相互の「人との学び合い」によるかかわり

- ① 個と個のかかわる時間を充実させる授業改善
- ② 仲間づくりを中心とした活動
- ③ 開かれた教室と職員室

2 家庭を含めた地域社会の「多様な人々や事柄」とのかかわり

- ① 多様な価値観や生き方から学ぶ共生社会
- ② 情報・出来事とのかかわりからの学び
- ③ 自己存在感を味わうことができる家庭

3 ふるさとの「文化や歴史、自然等」とのかかわり

- ① ふるさとの学び
- ② ふるさとへの誇り
- ③ 生命尊重

Ⅱ 各学年の取組(一部抜粋)

1 自尊感情の育成の取組

・自信の貯金箱(特別支援学級の取組)

日々の活動の中でできるようになったことや頑張ったことは言葉で褒めるとともに、コイン型の用紙に書き、教室の後ろに掲示している「自信の貯金箱」に貯めていくようにした。だんだんコインが貯まっていくことが励みや自信となったようである。日常生活では、その子どもなりの頑張りを認められるよう、「いいね。」「頑張ったね。」「できたね。」「ありがとう。」など、プラスの言葉かけをたくさんするようにしている。また、家庭との連絡を密にし、学校生活の様子や頑張ったことなどを連絡帳で伝え、保護者にも頑張りが分かるようにしている。

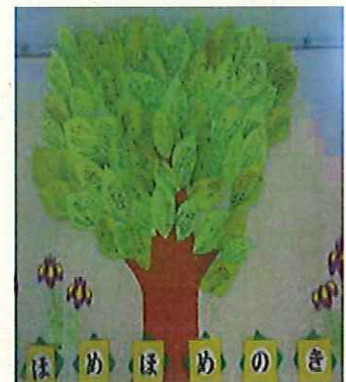


【自信の貯金箱】

日々の活動の中で、自分の頑張りたいことをめあてにできるようになったことを言葉で褒めるとともに、「がんばりカレンダー」を教室の後ろに掲示して、シールを貼っていくようにした。そのことが励みや自信となり更に頑張ろうとする意欲につながった。

・ほめほめの木、できるの木(第1学年の取組)

自他のよさや頑張りを、自分ができるようになったことを木の葉に記して「ほめほめの木」や「できるの木」に貼付し、それらを視覚的に実感できるようにした。木の葉を繁らせていくことで、自他のよさや頑張りを再確認させ、実践意欲を高めている。



【ほめほめの木】

・みんながヒーロー(第3学年の取組)

毎日朝の会でその日の見つけてほしいヒーロー像(親切・働き者・まじめ・頑張리など)を設定する。一日学級の子どもの様子を見ていて、帰りの会で見つけたヒーローを発表する。日によってヒーローの観点を变えることで、いろいろな友達のよいところを見つける力をつけるとともに、友達の発言を聞いて自尊感情が高まっていった。

2 主体的な行動力の育成

・当番仕事ボード(特別支援学級の取組)

特別支援学級では、毎日責任をもってする当番の仕事として、育てているトマトやきゅうりなどの野菜の水やりと、金魚・メダカのえさやりを行った。一人一人に役割をもたせ、それができたらホワイトボードにおはじきを貼ることで、子どもたちは登校するとすぐ活動することができるようになった。



【当番仕事ボード】

・みんながリーダー(第3学年の取組)

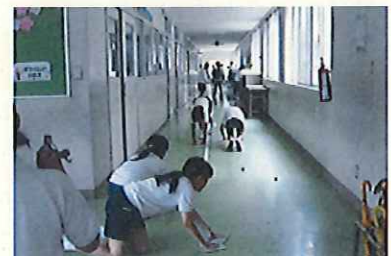
係活動やグループ学習などで、特定の子どもたちにリーダーの役割が固定しないように、全員にローテーションさせて司会の役を体験させる。その際、リーダーになった子どもたちの行動を個別にサポートし、リーダーシップのとり方を学習させた。



【班の話し合い】

・小さなボランティア活動(第5学年の取組)

1学期から小さなボランティア活動として、学校をよくしていくのいいのではないかと呼びかけた。すると、自分の空いた時間に身の回りを掃除し、学級に広めていく姿をよく見かけるようになってきた。教師や帰りの会でほめられ、頑張る自分の姿に自信をもち、続けている。



【ボランティア清掃】

・よりよい学級づくりのための話し合い活動(第6学年の取組)

よりよい学級づくりのために、みんなで話し合い、協力して解決する時間を大切にしている。人権学習で学んだことを自分たちの生活にかえしたり、学級でトラブルがあったときには、学級全員で解決するように心がけている。「何がいけなかったのか」「これからはどうしていくのか」をしっかりと児童に考えさせるようにした。一人一人が意見を言えるように、グループでの話し合いや全体での話し合いなど形態を変えながら取り組んだ。

3 コミュニケーション能力の育成

・2年生との交流（第1学年の取組）

2年生と一緒に学校探検をし、学校の秘密や決まりを知り様々な人の支えに気付いた。出会った人に自己紹介をしながら、コミュニケーションの楽しさや自信が得られた。百人一首大会では、互いにルールを守りながら対戦し、百人一首に親しみながら、交流を深めることができた。



【百人一首】

・お手玉やビーチボールで心のキャッチボール（第2学年の取組）

ペアになって「よいところを見つけ」「好きな季節」「好きな食べ物」等を理由をつけて発表し合っている。言った後、大きなお手玉を相手に送ることにより、話し合いが活発になってきている。キャッチボールを通して自分の思いと相手の思いを大切にし、心を通わせる力を育てている。

・朝の会の「きらきらタイム」（第4学年の取組）

朝の会で、「友達に関する歌の斉唱」「リコーダーの演奏」「人権の詩や作文の朗読」「ペアトーク」等の時間を設け、友達との連帯感やコミュニケーション能力を高める場としてきた。ペアトークでは、「もしも〇〇になれば・・・」「好きな〇〇」など自由に話せるテーマにし、向かい合って、相手に自分の考えが伝わるように理由も付けて話したり、うなずきながら目と耳と心で共感的に聞いたりしてきた。子どもたちからは、思わず笑いが起きたり、感嘆の声や拍手が出たりと楽しくトークし、自分の思いや考えを伝えることが苦手な児童のコミュニケーション能力も向上してきている。



【ペアトーク】

・体験的参加型人権学習（第6学年の取組）

体験的参加型の人権学習を通して、子どもたちのコミュニケーション能力を高めたり仲間意識を育てたりしながら、人権感覚を育む実践を行った。具体例を挙げると、「“あわ”人権ハンドブック」「構成的エンカウンター」「ピアサポートプログラム」等を活用した、「ごちゃまぜビンゴ」「四角形」「聞き方・伝え方」等、ゲーム感覚で、コミュニケーション能力や仲間意識を高めることができる人権学習である。

このような活動を通して、子どもたちは、友達のことをよく知ることや自分の思いをしっかりと相手に伝えることの大切さ、互いに助け合い、協力しながら問題を解決することの重要性を、少しずつ実感できるようになってきた。

Ⅲ 全校の取組

人権教育は、意図的・計画的に教育活動の中に位置づけることが大切であり、教科等指導、生徒指導、学級経営など、教育活動全体を通じて、人権教育を進めていくことで子どもたちの望ましい人間関係を形成し、人権尊重の意識を高めていくものである。そのことから人権委員会が全校児童に募集をし決定した「みのるん」（芝生小学校イメージキャラクター）を、様々な場面で登場させたり、活用したりすることで、すべての活動でつながりを意識できるようにした。



1 豊かなかかわりを意識した取組

(1) 教師や子ども相互の「人との学び合い」によるかかわり

- ① 個と個のかかわる時間を充実させる授業改善
- ② 仲間づくりを中心とした活動
- ③ 開かれた教室と職員室

- ・考えを共有し、練り上げの場でのホワイトボードの活用
- ・主体的で協働的な学びにつながる話型指導
- ・振り返りや行動化を支援する「あゆみノート」の活用
- ・朝の挨拶運動や自主清掃
- ・子どもによる、目的や相手をはっきり意識したプレゼンテーション
- ・小中連携授業（週5時間）
- ・人権集会わくドキタイム（異学年集団活動）
- ・ぴかぴかタイム（異学年集団活動）
- ・よさや頑張りを認め合う校内掲示
- ・各主任が活躍できる組織づくりと体制
- ・意見交換ボード（職員室）を利用した職員研修や共通理解

(2) 家庭を含めた地域社会の「多様な人々や事柄」とのかかわり

- ① 多様な価値観や生き方から学ぶ共生社会
- ② 情報・出来事とのかかわりからの学び
- ③ 自己存在感を味わうことができる家庭

- ・ラフティングチーム「ザ・リバーフェイス」との交流
- ・ホームページでの家庭への啓発
- ・親子でつくる人権標語
- ・「自分再発見ー自信をもとうー」がテーマのPTA広報誌発行
- ・人権学習授業参観日・人権講演会
- ・地域合同避難訓練（高齢者・婦人会・校区自主防災会）
- ・校内合同避難訓練（町内全消防団合同訓練）
- ・ボランティアによる読み聞かせ
- ・手話講師小笠原さんからの学び

- ・ゲストティーチャーから学ぶ知恵や技
- ・ふれあいドッジボール大会
- ・交通安全指導員や生活を見守ってくれる方々とのかかわり

(3) ふるさとの「文化や歴史、自然等」とのかかわり

- ① ふるさとの学び
- ② ふるさとへの誇り
- ③ 生命尊重

- ・先人の功績を学ぶ三村用水やゆるぬき見学
- ・ラフティングチーム「ザ・リバーフェイス」との交流
- ・高齢者とのふれあい
- ・校内合同避難訓練（町内全消防団合同訓練）
- ・地域合同避難訓練（高齢者・婦人会・校区自主防災会）
- ・秋祭りや文化祭りへの参加
- ・誕生の素晴らしさから命の大切さを学ぶ

2 具体的な取組の様子

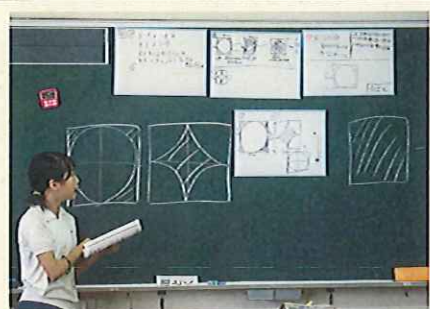
(1) 教師や子ども相互の「人との学び合い」によるかかわり

①考えを共有し、練り上げの場でのホワイトボードの活用

他者と協同して課題を解決する協同的な学習をすることは重要である。加えて体験活動を重視するとともに、思考力・判断力・表現力等を育む言語活動の充実を図ることが欠かせない。



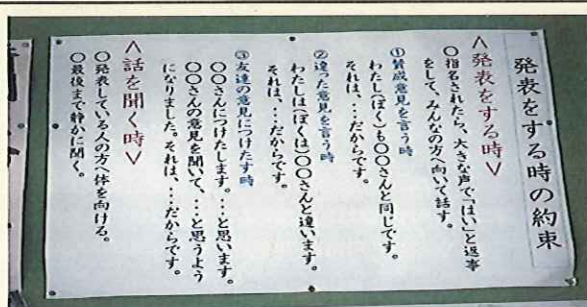
【グループでの練り上げ】



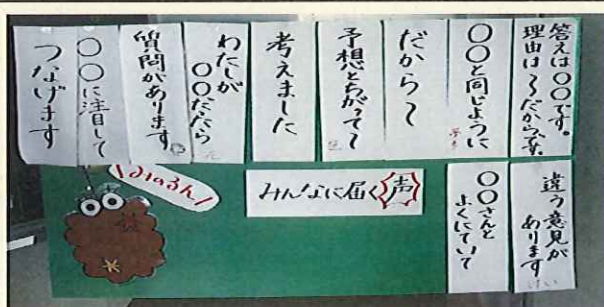
【考え共有の場】

その繰り返しの学習スタイルが確かな学力や様々な人権課題の解決につながると考え、子どもたちの活動時間を保障し、練り上げの場の工夫をした授業改善に取り組んできた。中でも、ペア学習やグループ学習にホワイトボードを積極的に使うことで適切な表現を選んだり指摘し合い、積極的に取り組む姿勢が見られるようになってきた。

②主体的で協働的な学びにつながる話型指導



【基本話型】

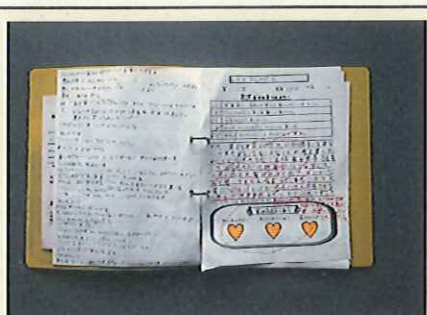


【子どもの発言から作る話型】

各教室には子どもたちが話し合い学習を進める手がかりとして、基本的な話型を掲示している。しかし、その話型にとらわれたり、話型が子どもの話したいと思うものに合っていないかったりするため、活用されにくい。そこで、試行錯誤したり、行きつ戻りつしたりする子どもの思考の実態に即して具体的なものを提示できるようにした。話型を変えてはいけないう一定の型としてではなく、様々に加工修正して活用できるものとして捉えさせることで、子どもたちも使いやすくなってきた。これにより、主体的で協同的な学びが少しずつではあるができるようになってきている。

③振り返りや行動化を支援する「あゆみノート」の活用

学習を進めたり、深めたりする際、それまでに取り組んだ学習を振り返ることは大切である。



【あゆみノート】

映像や写真で振り返るだけでなく、そのときの思いや感じ方、考え方を想起することができる「あゆみノート」を作成し、意識させたい価値について振り返ることができるようにさせてきた。このノートは全学年共通のフォーマットであり、授業や体験学習後、自分の思いを綴るようにした。教師は、次時の活動への導入が容易になり、主体的な行動に結びつくよう観点を選び「あゆみノート」を書かせている。

④朝の挨拶運動や自主清掃



【挨拶運動】



【ぴかぴかタイム】

毎朝7時40分から8時5分まで、6年生が校門前で挨拶運動を行っている。本校の前は中学生の通学路でもある、「おはようございます」という大きな声で1日のスタート

を切ることができる。また、児童会を中心に同じ時間に校門前の自主清掃も行っている。今年度（H28年度）より、毎月1回程度、朝の活動にぴかぴかタイムを取り入れ全校で行うこととした。児童会が始めた活動であるが、休みの日には校区内にある公園のゴミ拾いを自主的に行うなど広がりのある活動となってきた。

⑤小中連携授業（週5時間）



【小中連携授業 音楽】



【小中連携授業 英語】



【小中連携授業 理科】

本校は進学先である中学校と隣接している。そのため、交流が比較的容易であり、これま

でも、6年児童が中学校の授業参観をしたり、中学校教職員が小学校に訪問し、中学校生活や学習について話をしたりする機会をもってきた。更に今年度からは、週5時間（理科2時間、音楽2時間、英語1時間）の小中連携授業を実施している。中学校理科担当者が中学校の理科室で演示実験をしたり、音楽担当者がピアノ伴奏の補助や歌唱指導をしたりするなど、専門的な知識や技能をもって授業を行っている。この連携は小学校から中学校への進学をスムーズにするだけでなく、早い時期から専門性に触れることで、子どもの興味関心の高まりと将来への展望や夢を抱く児童が増えるよい機会であると捉えている。

⑥人権集会わくドキタイム(異学年集団活動)



【みのるん誕生】

本年度（H28年度）本校のイメージキャラクターを人権委員会が募集した。多くの募集の中から、イメージキャラクターと、「みのるん」という名前を決定した。このキャラクターは学習の中では目標や、学習のキーワードなど大切な場面で黒板に貼られたり、学校のめあてや全校児童に伝えたい場面で登場したりしている。人権教育の場だけではなく、様々な活動の中で愛着のあるキャラクターとして活躍している。



【わくドキ集会①】

また、毎月1回わくドキ集会（異学年集団活動）を実施している。人権委員会や6年生が中心となり行う集会で、仲間意識の高まりを期待して行っている。

【わくドキ集会①】では、班ごとに色紙で輪づくりを行い、最後に大きな1つの輪をつくった。一つ一つの輪は小さいけれど、それを合わすと大きな輪になることから、力を合わせることの大切さや、絆を感じることができた集会となった。



【わくドキ集会②】

【わくドキ集会②】では、「親子で作る人権標語」の発表を各班ごとに行った。高学年は低学年の世話をしながら、全員がしっかり発表を聞けるよう進行し、それぞれの発表に耳を傾けることができた。その後全員で輪になりジェンカを踊り交流を深めた。高学年から低学年までが一つのことに汗を流し楽しめた活動であり、共にふれ合うことの楽しさを味わうことができた。

⑦意見交換ボード(職員室)を利用した職員研修や共通理解



【意見交換ボード】

学校生活の中で子どもたちの健全な育成には教職員の共通理解は大切である。しかし、多忙な教職員が一斉に集まることができる時間は限られている。そこで、気付いたことを付箋紙で貼り付ける意見交換ボードを職員室に設置している。生徒指導上での気付きや、KJ法で意見の収集集約に利用している。業間の時間に先生方が意見や気付きを貼り付けることで、それぞれの考えを確認したり情報交換したりできる場になっている。

(2) 家庭を含めた地域社会の「多様な人々や事柄」とのかかわり

①ラフティングチーム「ザ・リバーフェイス」との交流



1月15日(金)に、本校児童に必要な自尊感情や忍耐力、目標に向かって邁進する不屈の精神力に少しでも目を向けさせ、地域の素晴らしさを認識させるため、ラフティング女子の世界大会出場チームの5名の方に講演をお願いした。彼女たちは、本市大歩危の吉野川の急流に魅せられ、全国各地から集まってきた。この素晴らしいコースは、国内はもとより世界でも一級地である。またこの地を拠点に、世界大会に向けての休むことのない日々の練習について語っていただいた。子どもたちは、本物のメダルやボートとパドル等を見せていただき、感動した。子どもたちは、目標に向かってのゆるみのない苦労や努力・辛抱があっはじめて、世界の檣舞台に立てることを感じ取っていた。それとともに、ふるさとの川・吉野川の偉大さにも目を向けてくれたようだ。

②校内避難訓練(町内全消防団との合同訓練)



【全11消防団集合】



【芝生小学生分団放水開始】

7月2日(土)には、町内にある消防団(11分団)が全て本校に集合し、校内避難訓練の実施と実践さながらの消火活動や消防車の見学をした。また消火体験も行うことで、消防団員とのか

かわりやふれあいの機会を得ることができた。この行事では、地域消防団長の話から、各分団で、子どもたちを含めたすべての地域の人々の生活を守るために、定期的な点検や操法の練習等に取り組んでいることを知った。また、人の命を守るためには、まず自分の命を自分で守ることの大切さと万一の事態には、すべてにおいて失敗が許されないため、常に消防施設の点検や練習に真剣に取り組んでいることなどを学ぶことができた。

③ボランティアによる読み聞かせ

毎週水曜日、木曜日、金曜日の朝の時間に、地域の方による読み聞かせを実施している。今年度から回数や実施学年を広げることで、本に親しむ子どもが増えてきた。また、読み手と聞き手との心の交流も生まれてきている。



【ボランティアによる読みかせ】

この読み聞かせを実施することにより、人の話を聞く態度の育成だけでなく、挨拶がしっかりできたり、はっきりとした言葉で話すことができたりするコミュニケーション能力の育成が期待できる。

④ふれあいドッジボール大会



【ふれあいドッジボール大会】

毎年、計画から実施まで、PTA が中心となりふれあいドッジボール大会を開催している。ドッジボールは、誰でも知っている上、比較的にみんな参加しやすい競技なので、とても盛り上がっている。「逃げて、逃げてー」「あー当たった」という子どもや保護者の大きな声が体育館に響き、普段、親子で汗をかきながらふれあう機会が少ないお父さんやお母さんも、白熱して参加しとてもいい時間である。ふれあいドッジボール大会は、親子の絆を深めつつ、日ごろ知らない保護者同士で親睦を深め、子どもが他の友達とどのようなかかわり方をしているかをスポーツを通じて分かり合える機会でもある。

⑤交通安全指導員や生活を見守ってくれる方々とのかかわり



【交通安全指導】

登下校する道路は狭く、車の通行量も多い。また、不審者情報が後を絶たず、安全対策に力を一層注ぐ必要がある中、毎朝、交通量の多い交差点には4名の交通安全指導員の方が立哨指導にあたってくれている。また、一斉下校が必要となった緊急時には、地域の方が安全に下校できるよう様々な場所で児童の下校を見守ってくださっている。そのような方の支えがあって安全・安心して登校できていることを正しく理解し、感謝の気持ちがもてるよう指導している。毎朝元気に挨拶ができ、交差点で停止してくれたドライバーに頭を下げ挨拶をしている姿から、子どもたち安全への意識の高まりや、地域の方への感謝の気持ちが感じられる。

(3) ふるさとの「文化や歴史、自然等」とのかかわり

①先人の功績を学ぶ三村用水やゆるぬき見学



【三村用水開口部】



【青蓮寺住職さんの話】



【桶川池のゆるぬき】

文政 10 (1827) 年に完成した三村用水は阿波徳島藩最初のトンネル式用水として知られている。用水が完成に至るまでには、この地域の農民たちが干ばつや飢饉で作物がつかれず、年貢の減免のための逃散までも行った経緯がある。そこで、時の庄屋助役であった山本新太夫翁が、この窮状を深く憂慮し、文化 4 (1807) 年から工事に着手した。山本翁は全財産を投げ打って、地域のために約 20 年かけて完成させ、三村 (清水村・勢力村・加茂野宮村)

の水田を潤し豊かな実りを招いた。三村用水の完成により、町内にあるため池も潤い、灌漑用水への苦労は激減した。用水工事着手の要因となった逃散の首謀者3名は処刑され、墓石も作られていなかったが、この逃散がきっかけで、この地に実りをもたらすこととなった。そこで、農民は地域の寺に、「みのり地蔵」として、この3名を祀り、現在まで伝えられてきた。

本校では、この「三村用水」に関しては、4年生で学習している。この学習では、水源地から用水や用水開口部、ため池の水抜き（ゆるぬき）、「みのり地蔵」等の見学を、一連の流れとして行っている。また、学習の際には地域の資源保存会や農業振興課、土地改良事業等の関係者からの話を聞いたり、寺住職からの説明を聞いたりしながら、歴史事象との「かかわり」や地域の方々との「かかわり」を中心とした学習となっている。

この「かかわり」により、地域の人が連綿と伝えてきた事象の大切さやそれを受け継いでいく現在の人々の様子を目の当たりにすることができる。

子どもたちの感想の中には、今の自分たちの生活に生き続けている地域の人が成し遂げた偉大な業績に気が付くとともに、たくさんの苦労や現在から将来へも受け継いでいこうとする人々への感謝の気持ちが見られた。

②地域合同避難訓練(高齢者・婦人会・校区自主防災会)

地域合同防災訓練は、学校が避難場所となっている地域を中心に、主に高齢者を対象とした訓練を実施している。子どもたちは火災や地震を想定した避難訓練を体験し、住民は子どもたちの非難訓練に合わせて、自宅から徒歩で学校へ避難してくる。その際、学校までの所要時間を記録し、毎年、の所要時間の変化にも注目していただいている。避難訓練終了後には、消防署による消火体験や消防機器の見学、県機関による煙体験や起震車体験、講話や視聴、また、地域防災倉庫の備蓄品等の展示を行っている。これらの見学や体験は、地域の方々が子どもたちの班に入り、子どもたちとともに体験活動に取り組んでいる。また、体験活動の最後には町内婦人会による炊き出しがあり、非常食試食体験もさせていただいた。

校区の高齢者・婦人会の方々や各機関の方々とのかかわりにより、緊急時の対応について関心はもちろん、集団行動時の規律やマナー、相手の身になって考えようとする態度、高齢者や下級生をいたわる心、敬語や会話のマナー等、幅広い分野での学びの場となっている。また、普段子どもたちと接する機会の少ない住民には、訓練の日を楽しみにしていただいている方も多い。

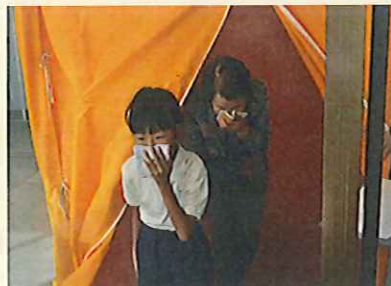
平成24年6月から開始し、現在に至っているが、昨年度から実施時期を変更しながら開催している。昨年度は秋に実施し、本年度は冬に実施予定である。



【婦人会による炊き出し】



【アイマスクで避難体験】



【高齢者と煙体験】

IV 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 自尊感情の育成

- 入学時から「ほめほめタイム」や「いいところさがし」を繰り返すことにより、自分や友達のよさに気づき、自他を共感的、肯定的に受け止められるようになった。
- 異学年集団による活動の機会をこれまで以上に取り入れることで、学年を超えてつながりが強くなった。上学年は下学年のお世話をし、感謝されることにより充実感を味わっていた。
- 「心がみのるんボード」を設置し、教職員が見つけた子どもたちのよいところを短冊に書き、貼っていった。担任以外の先生からの褒め言葉に、小さな出来事でも人から認められた喜びを感じていた。

(2) 主体的な行動力の育成

- 学習を振り返る「あゆみノート」に、次の行動に結びつくような観点を入れることにより、授業や体験活動と自分の行動を結びつけて考えられるようになった。
- 朝の挨拶運動や清掃活動など学校全体をよくするための活動を児童会役員が中心となって自主的にできるようになった。
- 様々な立場の人々とふれあう活動を重ねることにより、誰にも目標や願いがあり、それに向かって努力することの素晴らしさを感じ、自分も目標をもち生活をしようという児童が増えた。

(3) コミュニケーション能力の育成

- ペア学習や班学習の機会を多く取り入れることで、友達の話をよく聞き、それに対して自分の考えや思いを伝える活動が増え、しっかりと聞こうという態度が身に付いてきた。
- 異学年集団による活動をすることで、学年を超えて意見交換ができるようになり、上学年の司会の進め方や発表の仕方などを聞くことにより、下学年の言語能力にも高まりが見られた。
- 「群読発表会」や「朝の会のスピーチ」を全学年で取り組むことにより、相手意識をもって伝えようという意欲が高まった。

2 研究の課題

(1) 自尊感情の育成

- ほとんどの児童が自分にはよいところがあると考えているが、まだ数名自尊感情の低い子がいる。そのためには、何よりも家庭で認められているという満足感を感じさせることが大切で、そのために家庭との連携を続けていきたい。

(2) 主体的な行動力の育成

- 人権学習や体験活動をした後、自分はその学習をどのように生かしていくかを考えさせるための手立てや、学習したことを行動につなげていかなるための指導方法の改善の必要がある。

(3) コミュニケーション能力の育成

- 聞く力は大きく伸びてきているが、聞いたことに対して自分の考えをもてない子どもや思いを表現することに抵抗を感じている子どももいるので、継続し指導していきたい。